

性の多様性を考える – 性的少数者の人権問題 –

こころの性とからだの性が一致しない、性同一性障がいとみられる児童や生徒は、全国で少なくとも600人以上いることが明らかになっています。(文部科学省が2014(平成26)年に学校を対象とした実態調査結果から)この数は氷山の一角にすぎないと考えられていますが、社会での認知度が高まる中、悩みや不安を抱える子どもたちの姿も見えてくるようになりました。性同一性障がいについて理解を深めるとともに、不安を抱えた子どもに寄り添い、子どもたちが「自分らしく」生きられるように支援をしていくことがわたしたちに求められています。

性のありようについて社会的には少数派となる人たちのことを「性的少数者」といいます。性的少数者の総称の一つとして「LGBT」があります。それらは、一般的に次のことを指しています。

L:女性の同性愛者(レズビアン) B:両性愛者(バイセクシャル)
G:男性の同性愛者(ゲイ) T:こころの性とからだの性の不一致(トランスジェンダー)
法務省HP「性の多様性について考える」から

性的少数者の人権を保障するために個別の支援は当然必要です。しかし、刷り込まれた偏見や決めつけのために当事者が好奇の目で見られたり、からかわれたりすることから、周囲に打ち明けられない現実もあります。

「LGBT」から「SOGIE」という考え方へ

「SOGI」とは、Sexual Orientation(性的指向)、Gender Identity(性自認)の頭文字を取った総称です。2006(平成18)年以降、国際連合の諸機関で広く用いられている概念です。2016(平成28)年の文部科学省が出した文書の中でもこの表現について記されています。現在は、Gender Expression(性表現)を加え、「SOGIE」という総称が広がってきています。

性的指向とは…「好きになる性」と呼ばれることもある。人の恋愛・性愛がどのような対象に向かうのかを示す概念。
性自認とは…「こころの性」と呼ばれることもある。自分の性をどのように認識しているのか、どのような性のアイデンティティ(性同一性)を自分の感覚として持っているかを示す概念。
性表現とは…「見た目の性」と呼ばれることもある。服装などの身に付けているものや仕草、言葉づかいなどを示す概念。

「SOGIE」は、好きになる性(性的指向)やこころの性(性自認)、性表現という誰にでもある構成要素に着目することで、自分には関係のない話ではなく、誰もが当事者(自分自身の問題)と捉えやすくなり、性の多様性を認め合うことにおいて重要な概念と言えます。

性的指向や性自認、性表現の多様性について理解し、互いを認めあうことができるようになるとともに、制度を整える必要性についても議論していくことが大切ではないでしょうか。

Aさん、Bさんどちらの言葉かけを選びますか？

女性の恋人は「彼女」、男性の恋人は「彼氏」と想定されがちですが、異性を好きになる人だけでなく、同性や両性を好きになる人もいます。恋愛対象は異性だけとは限りません。Bさんのような声かけを考えることから、多様性を認め合うことは始まるのではないのでしょうか。

